



明治43年3月／根岸の大いちょう



大正15年／百石尋常高等小学校高等科1年生



大正11年／百石尋常高等小学校3年生

明	治
1868	
元	年
▼	
明	治
1912	
45	年

明治22年
明治23年
明治27年
明治35年
明治37年

明治19年
明治22年
明治25年
明治27年
明治29年
明治34年
明治45年

明治16年
明治17年

明治13年
明治14年

明治10年
明治11年

明治6年

明治元年
明治2年
明治4年

世の中の出来事

大日本帝国憲法発布
第1回総選挙
日清戦争
八甲田雪中行軍遭難199名凍死
日露戦争

二川目稻荷神社設立
十和田代官所廃止し藩主の知事制となり七戸藩知事就任
戸籍法制定
当村七戸支庁管轄村となる
大小区制施行、当村は第7大区第5小区となる（支村三沢も同じ）
百石小学校開校
大小区制を廃止、郡制を施行。百石村（支村三沢村を含む）天ヶ森村と称し、戸長役場を三沢の南山に置き百石村に村用掛を置く
若宮八幡宮再建
法運寺建立
支三沢、百石村より分離独立し天ヶ森村と連合した。百石村戸長役場となる
組合町村制施行
百石・下田村と連合し、百石村外一ヶ村戸長役場となる。下田に代理者を置いた
幸運橋竣工
市町村制施行。百石村外一ヶ村戸長役場廃止。百石村役場設置
百石小学校に高等科を設ける
公立消防組を設置
三陸の大津波襲来
百石小学校新築
百石信用組合創立



原始・古代・近世

何時の頃に定住者があつて村落を形成したのか明らかではないが、此の地方が史実に表れ始めたのは平安朝初期の頃からである。

当時、此の周辺一帯は都母(つも)とよばれ、都母族(荒夷)王侯の支配下にあり、朝廷により数度にわたつて蝦夷討征が行われたことは史記に明かなところである。

くだつて真観年代には慈覚大師が当地に杖を曳き、根岸不動明王神社を開基したと言ひ伝えられ、我が町発祥の地とされている。

その後、鎌倉時代に至り、源頼朝、奥州藤原泰衡を征す。その東征に従いたる甲斐源氏の南部三郎光行、功により、糖部の郷を賜つたと伝えられている。鎌倉幕府滅亡後に南部氏入部し、およそ五百三十年間の治政下に入る。

南北朝時代には、瀬戸内海水軍の豪将、忽那重清の船団が川口付近に着船、横道部落の丘陵地に駐屯し、南朝方の奥州鎮守府將軍北畠顯家や、南部師行などに武器、食糧を送つたとあり、今尚忽那の森を土人誇り伝えて鯨森(くんじやもり)と呼ぶ。

室町時代、永正四年根岸村に建立されていた曹洞宗高雲寺の五戸村への引移しがあり、御供人の明記あるを知る。よつて、既に居住者のあつたことが認められる。

元和九年郷社若宮八幡宮の勧請があり、天和三年(徳川五代將軍綱吉の年代)郡鄉村目録によれば五戸通百石村八十四軒とあり、本村十四軒、藤ヶ森十四軒、根岸四軒、支三沢村五十二軒とあり、それぞれ部落の成り立ちが認められる。

藩政時代は南部(盛岡)藩の属領地で、五戸代官の所管となり、三沢郷を含めて五戸通百石村と呼ばれた。